

# A 学校経営・評価

## 提言内容

これからの社会を担う人材の育成を見据えた明確なビジョンの策定と創造的な学校経営の推進および評価の工夫に関する提言

### 分科会の趣旨

これからの社会は、生産年齢人口の減少やグローバル化の進展、加速化する技術革新などにより、変化を正確に予測することがますます難しくなっている。我が国が将来にわたって成長し、発展を続けていくには、国際的視野に立ち、未知の時代を切り拓く豊かな発想力や創造性を身に付けたたくましい人材の育成が求められる。

新学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」のもと、よりよい社会の形成に向け、学校が果たす役割を家庭・地域とともに共有し、新しい時代に求められる資質・能力を育むため、一層の連携・協働が必要となる。校長には、これまで以上に次代を担う人材育成を見据えた明確な経営ビジョンと、地域や児童の特性に即した特色ある学校経営を推進することが期待されてくる。また、各学校において確かな改善を図っていくために、校長として自校の経営ビジョンや戦略を描くこと、改善の過程を管理しながら推進すること、保護者や地域に具体的に説明することなどが必要となる。

一方で、校長はすべての教職員に対して教育の担い手としての自信とプライドを持たせつつ、経営ビジョンの具現化や描いた戦略の実践に向け、リーダーシップを発揮することが求められている。

そこで、本分科会では、人材育成を見据えた校長の明確な学校経営ビジョンの策定と学校評価について、創造的な学校経営を推進していくための具体的方策を明らかにし、提言する。

### 分散会の視点

#### 第 1 分散会

これからの社会を担う人材の育成を見据えた明確なビジョンの策定と学校経営の推進

今後の社会では、変化に主体的に向き合い、解決の過程で自己の可能性を発揮し、よりよい社会の創り手となることが求められている。学校教育では、その実現のための新しい資質・能力の育成が重要となる。

このような人材育成のためには、全教職員が目標を共有し、具現化に向けた手立てや解決までの道筋、地域との協働を位置づけた学校経営ビジョンの策定が要となる。校長は、自己の教育理念に基づき、実践者である教職員個々の思いや保護者・地域の願いを反映させながら、教育目標実現に向けた構想を立てる必要がある。

本分散会では、このような視点を中心に学校経営ビジョンに基づく創造的な学校経営について協議を深め、校長の役割と指導性を究明する。

#### 第 2 分散会

学校づくり・人づくりを確かにする学校評価の工夫

学校づくり・人づくりを確かにする学校評価は明確な学校経営ビジョンに基づいて実施する必要がある。そこで、重点目標を設定し、達成状況をもとに手立ての妥当性を組織的・継続的に評価し、カリキュラム・マネジメントと関連付けながらPDCAサイクルによる改善を行う必要がある。

また、評価結果を反映した改善が児童の成長に結び付くなど有用性を教職員と共有することが重要であり、自己評価及び学校関係者評価、第三者評価を実施・公表するなど学校改善の視点を校外に求めることも大切である。学校評価を、保護者・地域の理解と参画を得ながら協働体制を確立する学校づくりの一助としたい。

本分散会では、学校評価の工夫について協議を深め、校長の役割と指導性を究明する。